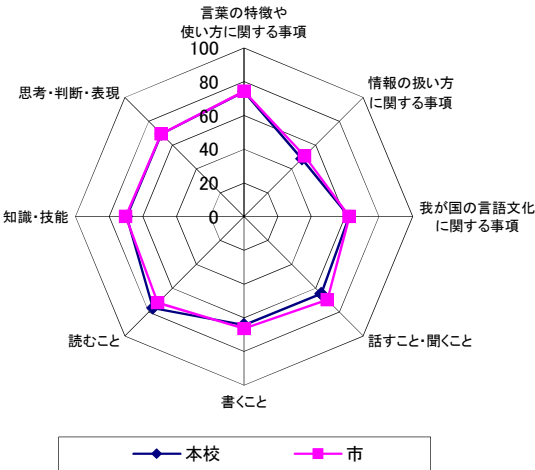


宇都宮市立城東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.2	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	48.6	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	62.3	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	64.7	69.9	69.7
	書くこと	64.3	66.4	64.6
	読むこと	76.6	72.3	71.0
観点別	知識・技能	69.7	70.1	70.0
	思考・判断・表現	69.3	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

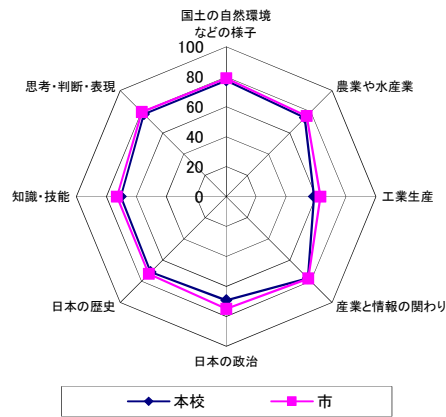
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	○平均正答率は74. 2%で、市の平均正答率とほぼ同等である。 ○文脈に沿った漢字を適切に使う問題については、市の平均正答率を16. 9ポイント上回っているものの正答率は低い。 ●漢字の読み書きについては、市の平均正答率を下回っているものがある。三字の熟語の構成や尊敬語の使い方については、市の平均正答率をやや下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・校内漢字検定を定期的に行い、漢字の読み書きの定着を図るとともに、三字の熟語についても適切に使えるよう繰り返し指導していく。 ・日常の学校生活において、敬語を意識して使うことを呼び掛け、習慣づけていく。
情報の扱い方 に関する事項	●平均正答率は48. 6%と市の平均正答率を2. 3ポイント下回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題については、平均正答率は75. 4%で、市の平均正答率とほぼ同等である。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く問題については、市の平均正答率を4. 8ポイント下回っている。	・この問題では、いくつかの情報が示され、その情報をもとに文章を書く力が求められている。今後は国語の学習の中で、いくつかの条件をもとに文章を書く学習に力を入れていく。
我が国の言語文化 に関する事項	○平均正答率は62. 3%と市の平均正答率とほぼ同等である。 ●漢字の由来についての問題について、概ね理解しているが、無回答の児童も見られた。	・新出漢字を学習する際に、読み書きだけでなく漢字の由来や成り立ちについても指導し、知識を深めていく。
話すこと・聞くこと	●平均正答率は64. 7%で、市の平均正答率を5. 2ポイント下回っている。 ○話し手の目的に応じて、話の内容を捉える問題については、市の平均正答率をやや上回っている。 ●互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、考えをまとめる問題については、平均正答率は17. 4%と低く、市の平均正答率を8ポイント下回った。	・話の要点を意識しながら聞く力を高めるために、話の流れや中心となる事柄をメモに取ったり、自分なりの考えをまとめたりする活動に取り組みさせていく。
書くこと	●平均正答率は64. 3%で、市の平均正答率を2. 1ポイント下回っている。 ○段落の役割について理解し2段落構成で文章を書く問題や事実を基に自分の意見を書く問題については、市の平均正答率をやや上回っている。 ●表やグラフを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題や指定された長さで文章を書く問題などについては、市の平均正答率をやや下回っている。	・自分の意見を書くときには、自分の体験やデータなどの根拠を示すなど、説得力のある文章を書くよう指導していく。 ・多くの情報を読み取って文章を書く場合には、情報を取捨選択して整理し、目的に応じた文章を書けるよう指導していく。
読むこと	○平均正答率は76. 6%で、市の平均正答率を4. 3ポイント上回っている。 ○説明文の内容を読み取る問題については、どの問題でも市の平均正答率を上回っている。 ●物語文の内容を読み取る問題については、市の平均正答率を上回っているものもあるが、登場人物の行動について描写を基に捉える問題では、市の平均正答率を1. 6ポイント下回っている。	・物語文では、描写を基に人物の心情を読み取らせたり、表現の効果を考えさせたりしながら、物語を読む指導をしていく。 ・説明文を読み取る力は身に付いてきているが、目的を意識しながら、叙述に即して読み取っていく指導を引き続き行い、さらに力を伸ばしていきたい。

宇都宮市立城東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	77.4	78.9	75.4
	農業や水産業	74.3	76.1	71.2
	工業生産	58.6	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	77.1	77.6	59.7
	日本の政治	69.3	75.0	79.3
	日本の歴史	71.4	73.1	72.8
観点別	知識・技能	70.3	73.0	71.4
	思考・判断・表現	77.9	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

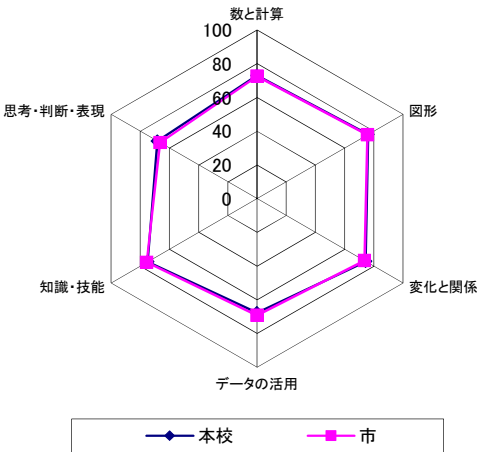
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	●本校平均正答率は77.4%で、市の平均正答率を1.5ポイントとやや下回っている。 ○日本の周辺の海洋名についての問題、中国の国旗と位置についての問題では、市の平均正答率を1.2～1.3ポイントとやや上回っている。 ●日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取る問題では、市の平均正答率を2.6ポイント下回っている。 ●天然林と人工林についての理解を見る問題では、市の平均正答率を6.7ポイント下回っており、無回答も見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本周囲の国の位置や国旗を指導をする際には、日常の国際情勢やニュース・出来事と結びつけながらフラッシュカード等で国名を提示したり、地図で位置を示したりして、児童の印象に残るような工夫をしていく。 ・日本の主な平野や川、山脈の名称と位置が一致するように、地図帳や資料集、視聴覚教材等を用いて、理解の定着を図る。 ・日本における森林資源の分布や働き、森林の育成や保護に従事している人々の工夫と努力が国土の保全につながっていることを指導するなどして、児童の興味・関心を高め、理解の定着を図る。
農業や水産業	●本校平均正答率は74.3%で、市の平均正答率を1.8ポイント下回っている。 ○日本の農業人口をめぐる課題について、資料を読み取る問題では、市の平均正答率を3.8ポイント上回っている。 ●都道府県の位置の理解をもとに、米の生産量について表を読み取り、白地図に表す作図問題では、市の平均正答率を7.4ポイント下回っている。県の位置を理解していなかったり凡例を正しく読み取れていなかったりという誤答や無回答が見られた。	・グラフや表、図などの資料から分かることを読み取ったり、分かったことから自分の考えを表現したりする学習を、今後も継続していく。 ・都道府県名と位置の学習において、地図帳や資料集を活用し、地図の凡例の見方を指導したり、フラッシュカードで児童に印象付けたりして、理解の定着を図る。
工業生産	●本校平均正答率は58.6%で、市の平均正答率を4.3ポイント下回っている。 ○自動車工場の作業工程についての理解を見る問題では、市の平均正答率を0.5ポイント上回っている。 ●日本の鉱産資源の輸入について、資料を読み取る問題では、市の平均正答率を大きく下回った。	・自動車製造の工程の学習と共に、日本の工業生産の優れた技術や工業生産に関わる人々の工夫や努力に着目し、考え表現する学習を取り入れ、工業生産への興味・関心を高め、理解の定着を図る。 ・日本の主な鉱産資源の輸入品と輸入相手国について調べる学習を通して、外国との貿易が日本の工業生産を支える重要な役割を果たしていることに気付かせ、学習への興味・関心を高め、理解の定着を図る。
産業と情報の関わり	○本校平均正答率は77.1%で、市の平均正答率とほぼ同等である。 ○資料に着目して、コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考え表現する問題は、正答率が68.6%である。これは、市の平均正答率を2.4ポイント上回っている。 ●インターネットを利用するときの注意点について答える問題の正答率は85.7%であり、市の平均正答率を3.2ポイント下回っている。	・1人1台端末を活用するようになり、使い方にも慣れて、インターネットの便利さを認識している児童は増えてきているが、「個人情報の保護」「著作権」に対する認識が低いという結果となった。インターネットを使用する上で大切な問題でもあるので、今後は学級活動などとも関連させて正しい使い方について指導していく。
日本の政治	●本校平均正答率は69.3%で、市の平均正答率を5.7ポイント下回っている。 ●日本国憲法の三原則や非核三原則についての問題の正答率が低く、市の平均正答率を4～5ポイント下回っている。 ●国会や裁判の仕組みに関する問題では、正答率が低く、市の平均正答率を約7ポイント下回っている。	・国会議事堂で議員が話し合っている様子は、ニュースなどで見聞きしているものの、興味をもって見ている児童はほとんどいないと思われる。教科書だけで国会の働きや日本国憲法の三原則等を学ぶのではなく、今現在審議されている法案等や外交問題・世界情勢に関心をもたせ、調べるなどの課題を提示して、実社会に結び付く社会科の指導を行い、理解を促していく。
日本の歴史	●本校平均正答率は71.4%で、市の平均正答率を1.7ポイントとやや下回っている。 ○飛鳥時代の出来事や室町時代の文化についての理解、織田信長の勢力拡大について、資料から判断する問題については、市の平均を4～8ポイント上回っている。 ●弥生時代の人々の暮らしについて資料をもとに表現する問題は、正答率が低く、市の平均正答率を大きく下回っている。	・弥生時代の絵からむらとしてのまとまりや、争いの様子は概ね読み取ることはできていると思われる。しかし、条件に合わせて文章で表現できない児童も見受けられる。今後は、資料をもとに文章で表すことを繰り返し指導する中で、表現力を高め、日本の文化や歴史についての理解を深めたい。

宇都宮市立城東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.0	72.6	73.1
	図形	76.1	75.7	74.7
	変化と関係	74.4	73.6	66.1
	データの活用	67.6	69.2	70.7
観点別	知識・技能	74.9	75.5	74.4
	思考・判断・表現	68.3	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

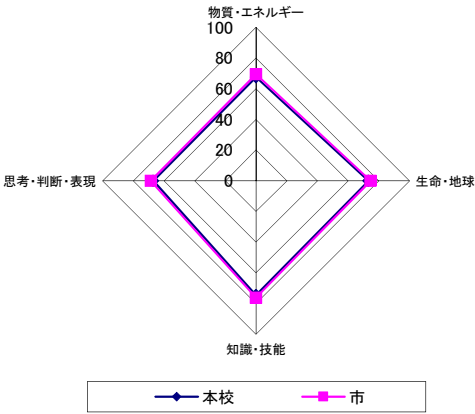
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は73.0%で、市の平均正答率を0.4ポイント上回っている。 ○小数の文章問題や文字の式では、どの設問も市の平均正答率を4ポイント以上上回っている。 ●分数の計算問題では、どの設問も市の平均正答率を5ポイント程度下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・小数の計算については計算技能の定着がみられるので、引き続き計算検定などを活用しながら計算練習を繰り返し、より正確な計算技能が身につくよう指導していく。 ・分数の計算問題については、児童が計算技能を正しく把握できているか確認したり、分数を簡単な数に置き換えて考えさせたりして、数学的思考力を高めるようにする。
図形	○平均正答率は76.1%であり、市の平均正答率を0.4ポイント上回っている。 ○多角形の内角の和を用いて角度を求める問題では、市の平均正答率を6.7ポイント上回った。 ●六角形の内角の和を求める問題では、市の平均正答率を4.5ポイント下回った。	・面積や体積の問題では、長方形の面積や直方体の体積の求め方を活用して、様々な図形の面積や体積が求められることを視覚的にイメージできるようデジタル教材などで確認するとともに、体積や面積を求める学習を繰り返していく。 ・正多角形の学習では正多角形を作図するだけでなく、作図した図形の内角を求める学習にも取り組むようにし、正多角形の性質の理解を図る。
変化と関係	○平均正答率は74.4%であり、市の平均正答率を0.8ポイント上回っている。 ○速度の単位を変換する問題の正答率は62.3%で、市の平均正答率を5.4ポイント上回っている。 ●面積と人数の割合を求める問題では、市の平均正答率を5.2ポイント下回っている。	・単位量あたりの大きさについては、表や図から平均や割合を求めて考察する力が十分に身につけていない。引き続き、表や図を用いて考える力が身に付くよう指導していく。 ・道のり、速さ、時間の関係を理解し、速さと時間から道のりを求めるような場面設定をし、日常生活の中でも活用できるようにする。また、記述式の問題に取り組む機会を増やし、考え方や解答の仕方などに慣れるよう指導する。
データの活用	●平均正答率は67.6%で、市の平均正答率を1.6ポイント下回っている。 ○円グラフから割合を読み取り、基準量から比較量を求める問題では、8.3ポイント市の平均正答率を大きく上回っている。 ●ドットプロットから最頻値を読み取る問題では、市の平均正答率を3.6ポイント下回っている。	・グラフから読み取ったデータの特徴や傾向から考えたことを話し合う活動を充実させ、児童がグラフを活用することの良さを実感できるような指導を継続していく。 ・代表値の見方や求め方などを繰り返し指導するとともに、具体的な場面と関連付けて考えさせたり、日常生活にも活用できるようにしたりする機会を増やす。

宇都宮市立城東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	67.4	69.3	65.7
	生命・地球	73.3	74.7	77.8
観点別	知識・技能	74.6	76.2	76.4
	思考・判断・表現	67.0	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●本校の平均正答率は67.4%であり、市平均正答率を1.9ポイント下回った。 ○「電流のはたらき」に関する設問「電磁石の極と方位磁針の指す向き」「電磁石と棒磁石に共通する特徴」は市平均正答率を3ポイントほど上回っている。 ○「ものが水にとけて透明になった液が水溶液である」という設問では、市平均正答率を4.9ポイント上回っている。 ●「物の燃え方」に関する設問はすべて市平均正答率を1.5ポイント～9ポイント下回った。	・観察・実験器具の正しい操作を含む観察、実験の技能に課題が見られるため、一人ひとりが操作する機会を設け、観察・実験の技能の確実な習得を図る。 ・科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりすることに課題が見られるので、根拠を明らかにした各班での話し合いやホワイトボードを利用した学級全体での考察など、言語活動の充実を図り、科学的な見方・考え方を育む。
生命・地球	●本校の平均正答率は73.3%であり、市平均正答率を1.4ポイント下回った。 ○「動物のつくりとはたらき」に関する設問のうち、「だ液のはたらき」と「呼吸の成分」に関しては、市平均正答率より約4ポイント高い。 ●全般的に記述問題の正答率が低く、無回答の割合が市平均より高い。とくに、「日光が植物の生育に必要なことを、葉のでんぷんをつくる働き観点から記述する」設問の平均正答率は37.1%に留まり、市平均正答率より12.1ポイント低く、無回答率は3.7ポイント高い。	・コロナ禍ではあるが、野外観察を行うなど、体験を伴った学習指導を充実させ、主体的な学びにつなげる。実際に体験が難しい分野については、アプリや動画などを用いて、知識の定着を図る。 ・自然現象についての知識を深め、理解したことを適切な用語で説明したり、ノートに記述したりする学習場面を多く設定する。 ・理科の見方・考え方をを使って思考・判断する場面を設定することが大切である。特に生命領域の学習では、共通点・差異点に注目しながら観察を行えるようにする。

宇都宮市立城東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の定着	本校では、「校内漢字・計算検定」を年間10回実施したり、市のステップアップシート(ミヤリ―テスト)を活用したりして、基礎基本の定着に努めている。また、朝の学習(パワーアップタイム)を各学級ごとに計画的に実施し、プリントやドリル学習を行っている。児童が朝登校したら、席について、提示された学習内容を自ら進められるようにしている。	漢字の読み書きについては、市の平均正答率を上回っているものと下回っているものがある。送り仮名を書く設問については正答率が低く、市の正答率も5、4ポイント下回っている。算数では、文字の式の計算の設問においては、市の平均正答率を上回っている。小数の計算の設問においては、市の平均正答率を上回っているものと下回っているものがある。分数の計算の設問においては、市の平均正答率を下回っている。
ノート指導の充実	校内ノート指導強化週間を年2回設定し、ノートコンクールを実施している。低・中・高学年、それぞれの発達段階に応じて明確な目標を設定し、学校全体で分かりやすいノートづくりの指導を行っている。自分や友達の考えをノートにまとめる時のきまりやマークを校内で統一している。模範となるノートを展示し、同学年、他学年のノートを見ることで、児童がよりよいノートづくりを意識できるようにしている。	国語では、「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」「事実を基に自分の意見を明確に書いている」において、市の平均正答率を上回っている。「授業で習ったことを自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」の肯定割合が、市の肯定割合を上回っている学年もあるが、下回っている学年が多い。授業で大事だと思うところを自分で捉えて書くことにおいて、課題が見られる。
「はっきり、じっくり、すっきり」の学習過程で児童が学びを深め、学びを楽しむことができる学習スタイルの構築(城東っ子の学び「城東スタイル」)	学校課題「学ぶ楽しさを味わい、進んで考え参画する子供の育成～よりよい集団活動を通して なりたい自分をつくる「城東スタイル」の構築」を掲げ、児童自身が問いを見出し、考え、伝え合うことができるように、学習活動を工夫し、学びを楽しみながら思考力・判断力・表現力を培っていきけるような授業づくりを進めている。	国語では、「話し手の目的に応じて、話の内容を捉える」ことにおいて、市の平均正答率を上回っている。「互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合う」ことにおいては、市の平均正答率を下回っており、課題が見られる。算数では、「小数の乗法の考え方を基に、整数×分数の計算のしかたを考え、説明する」において、市の平均正答率を上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国語の「文章を書く」の記述式設問では、事実と自分の意見を段落に分けて書いたり、グラフから読み取った事実を書いたりすることについては市の平均正答率を上回っており、本校において「書く力」をつける指導の結果であると考えられる。一方で、指定された長さで文章を書いたり、事実を基に自分の意見を明確に書いたりすることについては、課題が見られる。算数の「小数・分数の計算」「文字の式」など、計算する設問において、市の平均正答率を大きく上回っているものが見られ、校内計算検定の成果であると考えられる。

・国語の「情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書く」、社会の「弥生時代のむらの様子や人骨の資料に着目して、弥生時代の人々のくらしを捉え、表現する」、算数の「代表値を用いて、ある値が全体の値からみて半分より高い値なのかどうかを説明する」、理科の「ろうそくの火が消えた理由についての考察を改善し、記述する」など、思考力を働かせ判断したり説明したりする記述式の設問において課題が見られた。

・結果を踏まえ、次年度は、「自分の考えを深め、図や文章で分かりやすく表現する力の育成」に重点を置いて指導する。各教科等でめあてやねらいを明確にして、児童が学習した内容を自分の知識と関連付けて考えたり、友達と学び合って考えを深め合ったりし、思考したことやその過程を説明できる活動が充実するような授業づくりを目指す。授業のまとめや振り返りにおいては、学習したことを見つめ直し、目的を意識して自分の考えを表現できるような力を育成していく。

・学校での学習に関する質問では、「授業を集中して受けている」の肯定割合が、市の肯定割合を上回るか同等である学年が多く、本校の児童が、基本的な学習習慣を身に付け、学習していることがうかがえる。また、「勉強が好き」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」の肯定割合は、市の肯定割合を上回っている学年と下回っている学年があるので、児童が学ぶ楽しさを感じながら、主体的に学習に取り組めるような授業づくりをしていきたい。

・家庭での学習に関する質問では、「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」「授業で習ったことをその日のうちに復習している」「テストで間違えた問題はもう一度やり直している」の肯定割合は、学年によって市の肯定割合を上回ったり下回ったりしている。本校児童は、計画を立てて家庭学習に取り組めているが、その学習内容に課題が見られる。また、予習、復習などの自主学習に計画的に取り組むことに課題が見られる。今後は、児童が予習や復習、テストのやり直しなど、学習内容を工夫して計画し、継続して自主的に学習に取り組めるよう指導していきたい。